

国際救援物資備蓄事業

●協働先 NGO / NPO

県民及び県内に拠点を置く NGO・NPO

実施地域

岡山県内
ハイチ、フィリピン、中国、
パキスタン等

事業実施期間

2003年度～継続中

協力形態

事業協力

実施内容

県民から毛布等必要な物資の提供を受け、
救援物資の備蓄を行い、海外で災害が発
生した際には、県内の NGO・NPO 等か
らの要請を受けて、県が物資の提供を行う。



事業目的／背景

国際救援活動において、特に必要とされる毛布等8品目の救援物資を備蓄し、海外で大規模な災害が発生した際に、国際救援活動を行う NGO 等に物資を提供することによりその活動を支援するものである。

協働のきっかけ

2002年度に明石康元国連事務次長を会長とする「岡山発の国際貢献を考える会」において、本県の取り組むべき国際貢献のあり方についての検討が行われ、救援物資の備蓄についての提言をいただいた。この提言に基づき、2003年5月、県が救援物資備蓄センターを開設し、県民及び NGO・NPO と連携して大規模災害の被災地に対する救援物資の提供を行うこと

となった。

役割分担

自治体側：

- ・ 県民からの救援物資の受入・保管
- ・ NGO等への物資の無償提供

NGO/NPO側：

- ・ 被災地域へ送付する救援物資のコーディネート
- ・ 物資搬出時の人的パワーの提供
- ・ 被災地域への物資の送付（各種手続を含む）

協働によるメリット等

メリット：

- ・ 被災地域に必要な物資の情報の把握がスムーズに行える。
- ・ 県職員だけでは不足するマンパワーの確保

事業実施後の問題とその対応

備蓄センター（倉庫）が手狭になっており、保管場所の確保が急務になっている。

事業評価／今後の展望

海外の災害に限らず、県内・国内の災害においても、備蓄している物資を有効活用している。

